

「小京都」と「小江戸」、それと「〇〇銀座」

JJ1SXA/池

「小京都」の言葉には旅情を誘う響きがある、現在、全国45の自治体が観光やまちづくりに役立てようと、小京都を名乗っている。

「小京都の名は全国各地にあるが、自治体間の横の連携が無かった」(京都市観光協会)として、30年前の1985年に「全国京都会議」を結成し、総会を年1回開き、共通パンフレットを配布するなど観光キャンペーンで連携している。

趣のある地方のまちを小京都と語る歴史は古い、室町時代に各地の大名が都を真似た城下町を造ったのが起源とされる。

一例が山口市、1360年ごろ、守護大名の大内弘世が京都盆地に地形が似ている山口を本拠とし、京の都に模して、町を縦横に区画し、「西の京」として繁栄し、瑠璃光寺五重塔や龍福寺、川沿いの美しい景観などを残した。

観光都市・京都のブランドは揺ぎ無いが、一部の自治体は京都への対抗意識からオリジナル色を出そうと「脱・京都」に転換した、石川県金沢市、岐阜県高山市、岩手県盛岡市、滋賀県大津市などはかつて小京都を名乗っていたが、2000年代以降、全国京都会議から脱退した。

今も小京都と名乗る45のまちは、小規模ながらも懐かしい日本の原風景を保っている、京都の観光振興は地元の収入・雇用の生命線であり、今こそ自治体間の結束が求められている。

「全国京都会議」があり、そこに登録されている小京都をあげると次のようだ。

宮城県岩出山町(現・大崎市岩出山地区)、「伊達な小京都」とも呼ばれています。

宮城県柴田郡村田町「宮城の小京都」と呼ばれています。

秋田県角館町(現・仙北市角館地区)「みちのくの小京都」と呼ばれています。

秋田県湯沢市

福島県東白川郡棚倉町

栃木県栃木市こちらは後述する「小江戸」とも呼ばれています。

栃木県足利市「東の小京都」、「坂東の京都」などとも呼ばれています。

栃木県佐野市

埼玉県比企郡小川町「武蔵の小京都」と呼ばれています。

埼玉県比企郡嵐山町

神奈川県足柄下郡湯河原町こちらは小京都として紹介されていましたが、2011年4月以

降キャッチフレーズに「小京都」を使用しない方向で動いています。

新潟県加茂市「北越の小京都」、「越後の小京都」と呼ばれています。

長野県飯山市「北信濃の小京都」、「雪国の小京都」と呼ばれています。

富山県城端町(現・南砺市城端地区)「越中の小京都」と呼ばれています。

富山県高岡市

福井県小浜市「若狭の小京都」と呼ばれています。

福井県大野市「越前的小京都」と呼ばれています。

岐阜県八幡町(現郡上市八幡地区)「奥美濃の小京都」と呼ばれています。

静岡県周智郡森町「遠州の小京都」と呼ばれています。

愛知県西尾市「三河の小京都」と呼ばれています。

三重県上野市(現・伊賀市上野地区)

京都府亀岡市

兵庫県篠山市「丹波の小京都」と呼ばれています。

兵庫県出石町(現豊岡市出石地区)「但馬の小京都」と呼ばれています。

兵庫県熊野市(現・たつの市熊野地区)「播磨の小京都」と呼ばれています。

鳥取県倉吉市「山陰の小京都」と呼ばれています。

島根県松江市「山陰の小京都」、「西の小京都」と呼ばれています。

島根県鹿足郡津和野町「山陰の小京都」、「西の小京都」と呼ばれています。

岡山県津山市「中国山中の小京都」、「西の小京都」と呼ばれています。

岡山県高梁市「媚中の小京都」と呼ばれています。

広島県尾道市「瀬戸内の小京都」、「西の小京都」と呼ばれています。

山口県山口市「西の京」、「西の小京都」とも呼ばれています。

山口県萩市「西の小京都」と呼ばれています。

愛媛県大洲市「伊予の小京都」と呼ばれています。

高知県中村市(現・四万十市中村地区)「土佐の小京都」と呼ばれています。

高知県安芸市

福岡県甘木市(現・朝倉市秋月地区)「筑前の小京都」と呼ばれています。

佐賀県小城市

佐賀県伊万里市

熊本県人吉市「熊本の小京都」と呼ばれています。

熊本県山鹿市

大分県日田市「豊後の小京都」と呼ばれています。

大分県杵築市

那珂郡飫肥町(現・日南市飫肥地区)「九州の小京都」と呼ばれています。

鹿児島県知覧町(現・南九州市知覧地区)「薩摩の小京都」と呼ばれています。

以上、45箇所も日本には「小京都」があることになり、以前加入していた地域を含めると61箇所もの小京都が日本には存在していることになり、日本全国どこへ行ってもその風情が楽しめそうです。

小京都を名乗る資格は、「全国京都会議」が1988年に次のような基準を設けています、(1)京都に似た自然と景観があること、(2)京都と歴史的な繋がりがあること、(3)伝統的な産業と芸能があることとなっていて、このうちの一つを満たしていれば、どの町でも「小京都」と名乗ることが可能のようです。

「小京都」に対し、「小江戸」もあります、小江戸は「江戸のように栄えた町」「江戸時代を感じさせる町」として使われる言葉で、小江戸を名乗るには「江戸と関わりの深い町」、「江戸の風情を残す古い町並みを残している町」という定義があり、有名な埼玉県川越市の、ちょっとのんびりした雰囲気もありつつ粋でいなせな商店街などはまさにという感じです、

その定義を満たしているのは、埼玉県川越市の他、栃木県栃木市、千葉県佐原市(現・香取市)が1996年から「小江戸サミット」なるものを開催しています。

他にも小江戸は、千葉県夷隈郡大多喜町、神奈川県厚木市、静岡県磐田市掛塚、滋賀県彦根市などの町があげられています。(現在、小江戸は、七つあります)

銀座という地名は、江戸幕府が銀貨鑄造所をこの地に置いたことに由来する、駿府(今の静岡市)にあった銀座を、1612年(慶長17年)に江戸に移したからで、座とは、貨幣や、度量衡に従う特別な免許品を製造した場のことで、銀座の他に、金座、枡座、秤座、朱座、などがあったそうです。

全国各地で良く見かける「〇〇銀座」という名の付いた商店街、「華やかなイメージの銀座」に憧れて名付けられたであろう、その名称ですが、実際にはほのぼのとした昭和の香りを感じる商店街であることがほとんどのようです。

ところで、この「〇〇銀座」商店街、どの街にも一つはありそうな印象ですが、実際、全国にいくつあるのでしょうか？

全国の商店街をサポートし、活性化のための調査や研究を行う「全国商店街振興組合連合会」が47都道府県の商店街振興組合を対象に行った調査では、名称に「銀座」が入る商店街の数は345件あったようです、ただし、平成16年6月に行った調査結果なので、今は数が前後しているかも知れません」とのことですが、なんとその数345あったようです、全国の商店街数は14,989(この数字も変動しているかも知れません)あり、そのうち「〇〇銀座」が占める割合はわずか2%程度、良く見かける気がしていましたが実際にはそう多くはないのかも知れないです。

全国で345確認できた〇〇銀座ですが、〇〇銀座が最も多い都道府県はどこなのでしょう？ ということ、調べると、国内の地名や地形名をひたすら集める読者参加型サイト「地名コレクション」のデータによれば、日本一〇〇銀座が多いのは「東京都」で96銀座ある。(本家の銀座を除く)

さらに、東京で一番「〇〇銀座」が多いのは「北区」で、「十条銀座商店街」や「王子銀座商店街」を始め16銀座あります。

今となっては商店街の定番ネームという印象の「〇〇銀座」ですが、その元祖は東京都品川区の「戸越銀座商店街」だそうです、なぜ戸越が「銀座」になったのかというと、大正12年の関東大震災で被害を受けた銀座(東京都中央区)から、当時ガス灯用のガス発生炉用耐火レンガとして使用されていた白レンガを戸越の人々が譲り受け、戸越の大通り等に再利用したことから、日本で一番最初に銀座という名前を譲り受け「戸越銀座」が誕生したのだそうです。

「戸越銀座商店街」といえば、東京で一番長い商店街(全長約1.3km)としても有名ですが、そんな歴史があったとはちょっと意外。

銀座は豊臣秀吉が最初に定め、徳川家康の江戸幕府が駿府で開いた、駿府銀座が江戸へ移転し、現在全国的に知られているのは東京の銀座だ。

中央区銀座2丁目7にある銀座発祥の地碑、碑には「銀座発祥の地 銀座役所跡」と刻

「小江戸」川越市にある鉄道の駅は、JR東日本の川越線と東武鉄道の東上本線が乗り入れていて、駅は「川越駅」だ、紛らわしいのが、「川越市駅」と「本川越駅」だ、前者は、東武・東上本線の駅で後者は、西武・新宿線の駅だ、この駅には、2012年10月20日から「時の鐘と蔵のまち」という副駅名が付けられている。



JR東日本の川越線と東武鉄道の東上本線の駅「川越駅」



西武・新宿線の「本川越駅」



東武・東上本線の「川越市駅」

戸越銀座商店街の最寄り駅は、東急池上線の「戸越銀座」と都営地下鉄浅草線の「戸越駅」だ。



東急池上線の「戸越銀座駅」



都営地下鉄浅草線の「戸越駅」